

平成28年4月3日
今週のベストショット



青松園B 奈多サンデーズ 対 奈多クラブ

左から奈多クラブ今林辰也監督、完封と3安打の今林瑠生投手、3安打1HRの馬場口選手。

写真：三苦三球会 堺敏行

青松園B 奈多クラブ初戦を完封、そして打撃爆発！

奈多サンデーズ（1敗）0000000 0 砂場●ー長濱

奈多クラブ（1勝）012014X 8 今林瑠○ー安河内

HR：馬場口（奈多ク）3BH：今林賢（奈多ク）2BH：宮口、田中、江口（奈多サ）馬場口（奈多ク）

盗塁：今林賢（奈多ク）

2016年シーズン開幕となった奈多サンデーズ対奈多クラブは奈多クラブの初戦は、奈多クラブ打撃陣好調で大差のゲームとなった。初回の攻防は両チーム無失点だったか奈多クラブ1点先制後の三回、先発今林瑠生投手が出塁すると盗塁を成功させ、その後死球やヒットさらに相手ワイルドピッチなども絡み2点を追加。一方のサンデーズは二回に江口選手、四回に田中選手が二塁打を放つも今林瑠生投手を攻略する事ができず得点に繋がらなかった。四回裏にはサンデーズ鳥羽左翼手がボールを見失いかげながらも必死に追いかけながらレフトライナーをキャッチするなど守備で攻撃のリズムを作る事が出来たかと思われたが、五回、六回も得点を奪うことができなかった。0-4で迎えた六回裏、奈多クラブ上野選手の犠牲フライなどで追加点を奪い二死からこの日絶好調の四番馬場口選手の特大大ホームランなどで一挙4点を追加した奈多クラブは、最終回サンデーズを三者凡退に抑え、開幕白星と最高のスタートを切った。奈多サンデーズは二、四、六回に長打が出たが、あと1本を打つ事が出来ず無得点に終わった。

両チームともベンチはかなり盛り上がり、今年もシーズンが開幕したという事を改めて感じさせられる試合だった。（記事：三苦三球会 船橋史哉、写真 堺敏行）



昨年振るわなかった強豪同士の対戦。



始球式を行う今林秀明市議会議員。



奈多クラブ先発の今林溜生投手。



奈多サンデーズ先発の砂場仁投手。



バントヒットを狙うサンデーズ宮口選手。



レフト線に鋭い打球を放つサンデーズ江口選手。



クロスプレーもしっかりジャッジする藤澤主審。



六回表、二塁打を放つサンデーズ宮口選手。



投打で活躍の奈多クラブ今林瑠生選手。



3打数3安打3打点1四球の奈多クラブ四番馬場口選手。

奈多グラウンド 奈多フェニックス好調白星発進！！

奈多フェニックス（1勝）131110 7 池見○、今林勇一西藤

ブルーマーリンズ（1敗）001000 1 林●一井上

HR：池見（奈多フ）3BH：横山（ブルー）2BH：池見、能丸、西藤（奈多フ）盗塁：高原（奈多フ）

桜満開の奈多グラウンドで今年の初試合。対戦カードは打力に定評のある奈多フェニックス対新人を加え戦力を上げたブルーマーリンズ。一回表フェニックスは、幸先よく一番西藤選手がレフト前ヒットを放ち出塁するも二・三番が凡退。四番安藤選手のあたりは三塁ゴロでチェンジかと思われたが、ここで初戦の固さもあったのかブルーマーリンズ守備陣にエラーが出てフェニックスが先制。反撃に出たいブルーマーリンズは、一番井上選手が四球で出塁するも後続が断たれ無得点。二回表フェニックス七番高原選手が無死から内野安打で出塁すると盗塁でチャンスを掴み、続く八番実延選手のセンター前タイムリーで2点目。続く池見選手はライトへ本塁打を放ち試合を有利に進めていく。三回表池見選手の二打席連続の長打となる二塁打で5点目。四・五回もヒットやエラーを絡めて追加点。一方、このままでは終われないブルーマーリンズは一番井上選手が四球で再び出塁すると、二番末松選手の三塁ゴロの間に三塁まで進むと、ここまで危なげなく投げていた奈多フェニックスバッテリーにミスが出て待望の1点を取り返す。しかしブルーマーリンズは、池見投手とリリーフの今林勇太投手の二人の好投手を相手に追加点が奪えない状況が続き、ヒットが出ないまま六回を迎える。このままノーヒットかという雰囲気の中で意地を見せたのが三番の横山健介選手！レフトへの三塁打を放ちチーム初ヒット。しかし、後続が断たれ試合終了！！軍配はフェニックスに上がった。フェニックスは、守備面では点は取られたが池見投手が四回まで投げてヒットを与えず今林勇太投手と2人合わせて10個の三振を奪った。攻撃面でも評判通りの打線で六回中5回先頭打者が出塁している。一方ブルーマーリンズは、戦力アップもあり何とかしようという心意気は見えていた。和白リーグも各チームの力が上がってきており混戦が起こる可能性を思わせてくれる試合だった。

（記事、写真：新町パイレーツ 桐島涼）



ブルーマーリンズ先発の林投手。



奈多フェニックス 一番西藤選手。



奈多フェニックス 先発池見投手。



ブルーマーリンズ一番の井上選手。



桜をバックにフライを懸命に追うブルーマーリンズ。



反撃のため円陣を組むブルーマーリンズ。



もうちょっと！ ブルーマーリンズ川口選手。



大事に！大事に！ フライキャッチ林投手。



代打！ 今林心一！！だったが・・・



バントを試みるブルーマーリンズ井上選手。



リリーフで登場！フェニックス二番手の今林勇太投手。



チーム初のヒットを放つ三番横山健介選手。



三塁打を放った横山健介選手。

青松園A ウインズ藤田選手、ド派手な開幕試合！

三苦フレンズ（1敗）100000 1 生野拓●一佐藤

新町ウインズ（1勝）20103X 6 早田、藤田一今林

HR：藤田（新町ウ） 盗塁：生野拓（三苦フ） 永利、安藤一2、今林

開幕式直後の試合は、先の藤本あきのり杯で優勝し波に乗っている三苦フレンズを昨年初優勝に手が掛かりながら最終戦で涙を飲んだ新町ウインズの一戦。ウインズ先発の早田投手は2年ぶりのWSLマウンドだったが、四死球で満塁としWPで1点を与え、またも四球を出したところで藤田投手にスイッチ。最初からピンチの場面でスイッチの入った藤田投手は、二者連続三振と二ゴロで無失点。対するフレンズ先発は生野（拓）投手。先頭を打ち取り無難な立ち上がりには思えたが、ひよんな所で落とし穴が。二番安藤（一）選手の投ゴロを捌いて一塁へ送球。これを吉村一塁手が走者側のオレンジベースにタッチして走者を生かしてしまうと、ここから連続死球に犠牲フライとエラーで2失点と逆転を許す。二回は立ち直りを見せたものの、三回裏にはウインズ五番泉（圭）選手のタイムリー、五回裏には藤田選手のライトへの特大2ランと押し出しで3点を失い計6失点。一方藤田投手はフレンズ打線が無安打2四球に抑え込み、ウインズの勝利に貢献した。

若い選手が多いフレンズを圧倒的な力で粉砕したウインズ。ちょっとした守備のミスが一気に流れを変えてしまった典型的な試合に思えた。（記事・写真：レッドサンデーズ 八島久徳）



新たな気持ちで試合開始。



2年ぶりマウンドのウインズ早田投手。



満塁からのWPでフレンズ先制。



ねぎらいながらも交代を告げる久保田監督。



交代した藤田投手は後続を完全に切る。



フレンズ先発は生野拓磨投手。



相手ミスで出塁して、二盗、三盗を決める安藤選手。



同点の犠牲フライを打つウインズ五番泉選手。



五回裏、迫力あるスイングで中前打を放つ野中選手。



藤田選手の完璧に捉えた打球はライトはるか彼方へ。



昨年よく見た昨季本塁打王藤田選手を出迎えるシーン。



一死満塁でアウトカウントを間違え犠飛のはずが W プレーに。

第1週編集後記

WS Lの皆さん、コンニチハ!

桜が咲き誇る4月3日朝7時からのグラウンド整備に来られた執行部、各チームの運営委員さんお疲れ様でした。

今年も無事開幕式を終え、3試合が行われました。

青松園Bの奈多サンデーズ対奈多クラブ戦は、サンデーズ砂場仁、奈多クラブ今林瑠生の若い投手な投げ合い。初回こそお互いに無失点だったが、二回以降その試合経験の差が浮き彫りに。今林瑠投手は3安打打たれているがどれもランナー無しの場面。一方砂場投手は四球から連打を喰らうという状況。これに味方エラーも重なり、隣のグラウンドで見ていた私も「何やってんだ」と思うと同時に奈多クラブ打線の迫力を感じた。結果的に打っては、9安打8得点、守っては被安打3、与四球2、無失策完封と完璧な内容で奈多クラブの勝利。圧勝と思われた今林辰也監督は「六回裏の3ランまで気が抜けなかった。それで数多くいたベンチメンバーも1人しか出せなかったのが残念だった」と語っていた。選手も最後まで気を抜かなければ今年の奈多クラブは優勝を狙えるかもしれない。

奈多グラウンドの奈多フェニックス対ブルーマーリンズ戦は、6人の20代選手を揃え意気上がるブルーマーリンズが昨年準優勝のフェニックスに立ち向かったが、フェニックス打線が14安打7得点、投げては池見、今林勇太投手で被安打1の1失点リレーとその壁は高く、返り討ちに。ブルーマーリンズも若武者横山健介選手が一矢報いたが、若い彼を中心としたチーム全体の指針を明確にしてもいいかもしれない。ただ、捕手で主軸を打

ってというのは大変だから、サポート体制と勝利を得るための作戦の充実無くしては、今年も指定席が待っている。

青松園Aの三苦フレンズ対新町ウインズ戦は、初回無死満塁からリリーフ登板した藤田選手の独壇場だった。藤本あきのり杯を優勝したフレンズ打線を寄せ付けず無安打に抑え、打っては試合を決める2ラン。藤本杯のフレンズもそうだったが、やはり投手の出来次第で試合はほぼ決まると言っても過言ではないなと思った。また、ちょっとした気の抜けたプレーが投手の足を引っ張り、雪だるま式に傷口を広げていき、結果一方的な試合になる怖さも感じられる試合だった。フレンズも次の試合がこのような試合展開だと、指定席が待っている。

今年も14チームで開幕を迎えたわけだが、早くも今シーズンを占う結果が6チームに出た気がする。開幕戦をたかが1/14と考えるのか、スタートダッシュを意識して結果をしっかりと出していくのかでは雲泥の差だ。勝ったチームはこの勢いを次の試合に繋げて欲しいし、負けたチームはしっかり修正して次の試合に臨んでほしい。